

今だからできること



パンデミックは私たちの信仰に強い影響力をもたらしました。日本ではミサに参加する人数が制限されたり、日常的な教会運営会議が支障をきたしたりと、動きが50%ほど低下していたこともあります。少し落ち着いてきましたが、この一年間を振り返ってみると、自分の信念にほとんど成長の跡が見られないことに気がつきます。2019年に来年こそ「このようにしよう、どのようにしよう」と思い描いていたことを、2020年にどこまで実現できたか、どこまで自分の成長の糧にすることができたか反省することばかりであります。悲しくなるばかりですが、そういう状況の中でマリアニストであることの意味と求められていることを振り返る機会が与えられたことも事実です。実は、私の信仰生活を支えている「マリアニストであること」とは何を基準にしているのか、教会の中で自分の信仰が具体的な行動としてどのように表現されているのか、という根本的な問題を突き詰めて考える機会があまりなかったことに気づきました。考えるヒントになるものを求めてzoomを使ってマリアニスト同士の意見を交換する集まりがありましたが、次のように述べています。『マリアニストはその使徒活動を決して一人ぼっちで行なっているではありません。先ず私たち自身の共同体のメンバー、それから他のマリアニスト共同体のメンバーというように、常に他のマリアニストから支えと励ましがあります。このように、私たちを存在させるようになったルーツを振り返り、今、もっと共同体を志向する方向へと視野を広げ、より大きな希望をもって明日へと目を向けようと努めてきました。私たちマリアニストは決して一人ぼっちではありません。私たちはマリアと共にあります』この方の意見は一つの回答になります。シャミナード師とアデルが作り上げた共同体は、人と人とのつながりを広めていくことこそ、厳しい状況を克服するための強い武器になるということだったと思います。

マリアニストの自分が、他のマリアニストと共にどのような活動をしているか。自分の共同体の中でもほかのメンバーに勇気や希望を与えているか。メンバーが共同して実現する作業に自分は十分に参加しているか。このような反省を十分に意識させてくれたのがこの一年でした。2021年はさらに一步前進できるように努めなければなりません。

平田 潔

教会憲章を読み直そう

パンデミックは思いもかけなかった機会を私たちに与えてくれました。その一つが「教会憲章を読み直そう」という研究会です。きっかけは一人のマリアニストの女性が、教会憲章の第8章でマリアの教会での働きを知り、もっと深く知りたいと提案したことでした。その意見に賛同した数名のメンバーがこのグループを立ち上げました。

毎月1回、2時間ほどマリア会の修道院に集まり、マリア会の司祭から教会憲章を第1章から解説していただくことにしました。もちろん日本語訳を使いましたが、中には英語の方が分かりやすいというメンバーもいて、それぞれの立場から意見交換ができました。

実は、読み進むにつれて、全員が強く印象付けられたことは、教会憲章で述べていることが、シャミナード師が繰り返し文書の中で語り掛けていることと非常によく似ているということでした。特に、第8章の教会の中でのマリアの役割とあり方について読み込み、読み下していくにつれて、シャミナード師の先見性と新しい教会の在り方についてのシャミナード師の斬新さに驚くばかりでした。詳しいお話はここではできませんが、シャミナード師のメッセージには今だからこそ深き理解行動はねばならない状態後進を超越するたる希望から希望をもって前進するためには、もっと楽天的に私たちの生活を進めていくためには、拠り所となる指針がなければならないのですが、それは、改めて「教会憲章を読み直すこと」と「シャミナード師の言葉を読み直すこと」であると強く確信しました。

改めて、現在の社会の中でMLCが果たす役割は、私たちが教会をさらに深く理解することではないかと思います。

